

連載してきた「実学としての株式投資の必要性」は今回で26回目となります。本連載では、一貫してほとんどの日本人が直面する「年金だけでは老後を暮らしていくのは非常に困難である」という社会的問題を、個人個人が自力で解決する一つの有効な処方箋を提示してきました。

実学の株式投資技術の必要性(26)

良いのです。
あなたの長年の実務経験に裏付けされた知識・スキルという資産はあなたを雇っている企業・組織だけにしか価値のないものではありません。その貴重な知的資産を3重、4重、5重に活用してマネタイズ(キャッシュフローを生み出す)するのです。

同じ限られた資産を何重にも活用してキャッシュフロー創出を最大限に高めようとするのを「範囲の経済」といいます。ではどうやって知識・スキルをマネタイズして収入源を複数創り出すのか、具体的な実例を挙げて説明します。

もう一つは「収入源は一つだけ」という誤った思い込みです。収入源は一つではなく、複数作れば

収入源を 多様化する



愛知淑徳大学
経済学部教授
三矢 幹根

ン・証券マン)およびその周辺知識・関連スキルを継続して高め、勤め先以外の場でも活用します。例えば、株式投資の実践で活用します。その知識やスキルがある価値を超えてくると、あなたの知識やスキルを他の人・他社・他業界が求めるようになります。

あなたがブログでその専門知識・周辺知識の一部をほぼ毎日書き続けていると、やがて出版社・出版関係者から注目を集め、本書くように依頼され、本業以外でも印税としてのキャッシュフローを生み出します。ブログでほぼ毎日情報発信しながら、本を出版するようになる講師として数々の講演会出演の依頼が転がり込んできて、講演料としてのキャッシュフローも生み出します。出版社から依頼された講演は録画され、DVDブックとしても販売されて、ここからも印税収入があります。

また、この頃には自分単独の名前でも集客できるようになっており、単独セミナーを開催できるようになり、事業収入が生まれます。やがて、あなたの実務経験の裏付けがある幅広く深い専門知識は他業界、例えば、大学から准教授・教授として迎え入れたいという申し入れにつながり、転職します。大学教員として第2のキャリアを歩みながら、株式投資・トレードの実践を続けながらキャッシュフローを生み出す傍ら、出版した書籍・DVDブックや雑誌・新聞社などから依頼された記事の印税も入ります。さらに、自らの株式投資・トレードから得る収入と主権する定期的なセミナーからも事業収入があります。

このように同じ限られた知的資産でも、4重、5重にも活用することであなたの専門知識・経験をマネタイズして収入源を多様化できるのです。これでもまだ将来が不安なら、年金受け取り開始のタイミングを通常の65歳から70歳へ先送りしましょう。そうすると、受け取り年金額は約40%増加し、その増加した年金受取額は生涯続きます。

みつや・みかね 専門はコーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リース大学経営学大学院・MBA(Finance)。1959年生まれ。